

法政大学社会学部同窓会

発行人 高橋 敏(同窓会会長)
編集人 吉川新吾(会報委員長)

〒194-0298 東京都町田市相原町4342
法政大学3号館(図書館・研究所棟)5階
TEL・FAX 042-783-2421
http://www.hoseisoc-dousokai.jp/
郵便振替口座 02東京00140-1-63762

法政大学 同窓会報

社会学部

Vol.46

信 条

本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。(会則第3条)

戦後70年特集

追悼 法政大学社会学部卒業生 後藤健二さん

非業の死は、私たちに何を問いかけているのか。

今年2月、シリアで殺害されたジャーナリスト、後藤健二さんは、法政大学社会学部の卒業生である(応用経済学科92年3月卒)。世界の現実を伝えるため危険は承知で活動し、伝え続けた同窓生、後藤さんの仕事と人生を私たちは誇りに思う。今、世界と日本の平和のために何をすべきか。様々な考え方があがるが、後藤さんの非業の死は、このテーマを考えあう新たなきっかけを提供した。現代人への問いかけとして考え続けたい。(会報編集部)



取材先で子どもたちと交流する後藤健二さん(インデペンデント・プレス提供)

私たちは今、改めて考えることを迫られている。

法政大学総長 田中優子

戦後70年を迎えた今年、私たちは「国とは何か」「戦争で平和を守るのか」「改めて考えることを迫られています。後藤さんが亡くなった背景には、国家の覇権争いの結果、追い詰められた人々がいます。その争いに参加して力を誇示したと考える今の日本があります。後藤さんの仕事は何を私たちに伝えたのか、後藤さんの死は何を私たちに指し示しているのか、それを考えることは、戦後70年の、今の私たちを考えることです。

(15年4月5日)

(事件発生の直後、田中優子総長が発信したメッセージ)

法政大学とその付属校で学び働く皆さんへ

2015年2月2日

皆さんに、たいへん悲しいお知らせをしなければなりません。法政大学の付属校(法政大学第二高等学校)と社会学部で学んだ卒業生、後藤健二さんが、誘拐され拘束された末、殺害されたと思われまます。これが事実であるならば、総長として、卒業生がこのような経過で命を奪われたことは、実に悲しく耐えがたいと思います。本学は、後藤さんが本学卒業生であることを把握しておりましたが、極めて難しい交渉が続く中、今まで報告や発言をさしひかえていました。後藤さんは卒業後、インデペンデント・プレスという映像制作会社を自ら設立し、紛争地域で生きる弱者である子どもたちや市民の素顔を取材し、私たちに伝え続けてきたジャーナリストです。常に平和と人権を希求して現地で仕事をされてきたことに對し、ここに、心からの敬意と、深い哀悼の意を表します。いかなる理由があろうと、いかなる思想のもとであつても、また、世界中のいかなる国家であろうとも、人の命を奪うことで己を利用する行為は、決して正当化されるものではありません。暴力によって言論の自由の要である報道の道を閉ざすことも、あつてはならないことです。法政大学は戦争を放棄した日本の大学であることを、一日たりとも忘れたことはありません。「自由と進歩」の精神を掲げ、「大学の自治」と「思想信条の自由」を重んじ、民主主義と人権を尊重して

特別寄稿 後藤健二氏を偲ぶ

一人で黙々と筋トレをやっていた

桑原政昭(76年卒・平野秀秋ゼミ)

中東でこのほど亡くなった同窓生の後藤健二さんについては、数々の報道がなされていますが、知人に後藤さんの会社の同僚だった方がいらっしゃいましたので、お話を伺いました。

あつ、後藤さんだ——とテレビを見ていて、すぐわかりました。流通中心の会社ですが、彼の同期生は50名ぐらいいたでしょうか。新人社員は、まず教育センターで新人研修をします。彼は、社内報の新人社員紹介のページで、特技は英会話とボディビルディングだと、自らを紹介していました。体格がよかつたのが印象的でした。うちの会社は海外事業所もあるので、英

会話を生かして海外に、とばかりしていたようです。そして、研修が終わってみんなで飲んだときも、後藤さんは、体育施設で一人で黙々と筋トレをやっていたそうです。あまり社員同士で集まり、ばか騒ぎするよ

うなタイプではなかつたのに運ぶような作業でした。彼は、それになじめなかつたと聞いています。それで、3か月で辞めちゃったんですかね。聞いた話によると、そのころからできていた4月の研修では、筋肉の話

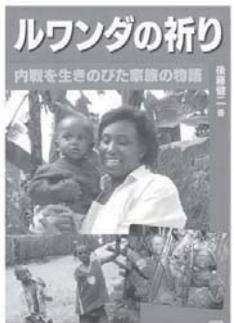
4月の研修では、筋肉の話

実母、石堂順子さんを訪問



石堂順子さんの誕生日に記念撮影

4月19日、後藤健二さんのお母様、石堂順子さんを高橋敏会長、吉川新吾会報編集担当で訪ねました。応接室にはたくさんのお花に囲まれた遺影が置かれ、最初にお焼香させていただきました。後、順子さんに健二さんの思い出をお聞きしました。順子さんは「法政二高と法政大学の学びが健二の人生の基盤を作ったように思います」と話されました。コロナビア大学留学中(88年)に届いたお手紙を拜見しました。そこには新しい事物への出会いに心ときめく健二さんの様子がつづられていました。ジャーナリスト志望が固まつたのはこの頃のようにです。



後藤さんの著書(汐文社)。子ども向けに世界の現実を伝えてきた。NHK「週刊こどもニュース」のコメンテーターとしても活躍していた。